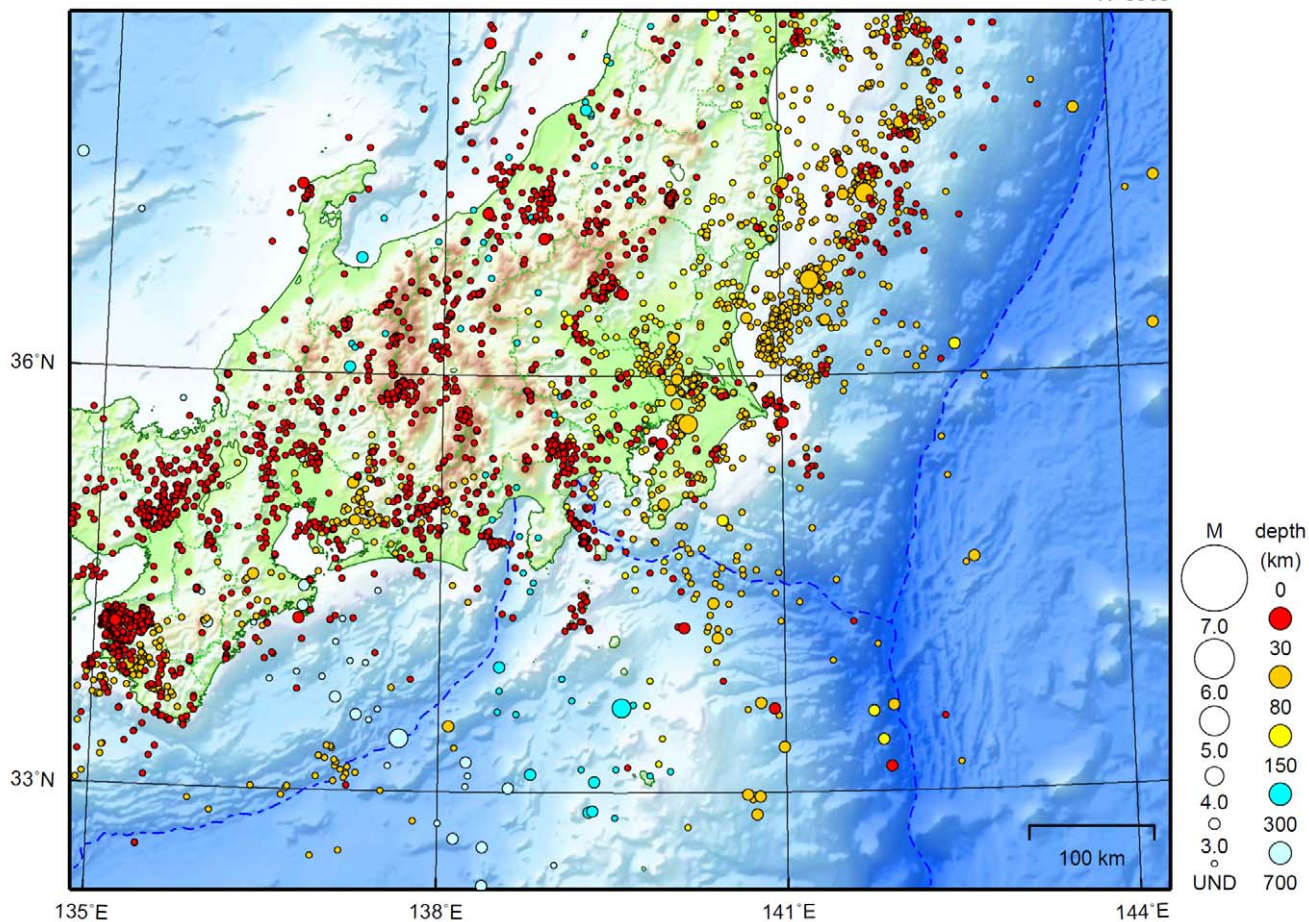


関東・中部地方

2010/12/01 00:00 ~ 2010/12/31 24:00

N=3965



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

(範囲外)

12月22日に父島近海でM7.4の地震(最大震度4)が発生した。この地震の最大余震は23日に発生したM6.5(最大震度3)であった。

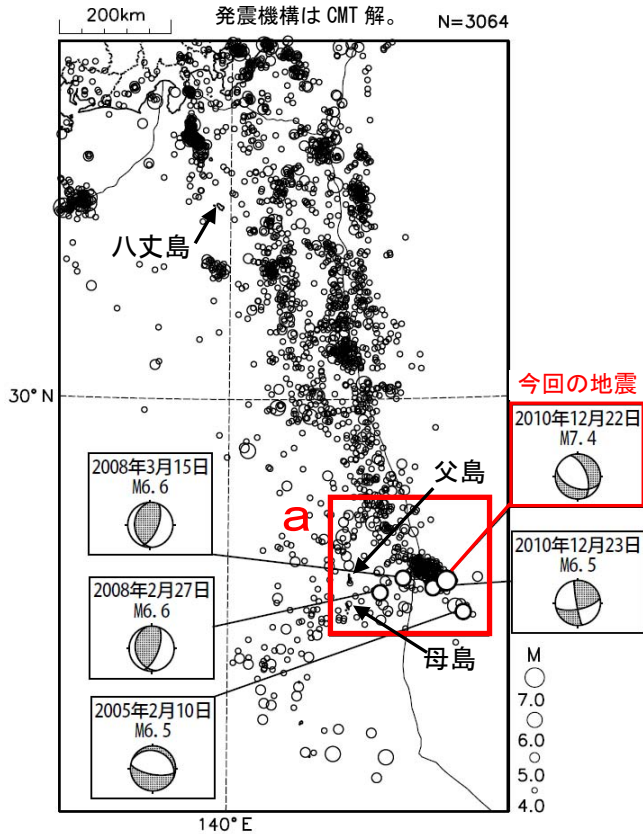
(上記期間外)

1月3日に新潟県下越沖でM4.7の地震(最大震度4)が発生した。

[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

12月22日 父島近海の地震

震央分布図(1997年10月1日~2010年12月31日、 $M \geq 4.0$ 、深さ0~200km)



12月22日02時19分に父島近海でM7.4の地震(最大震度4)が発生した。発震機構(CMT解)は北東-南西方向に張力軸を持つ正断層型で、太平洋プレート内部で発生した地震である。

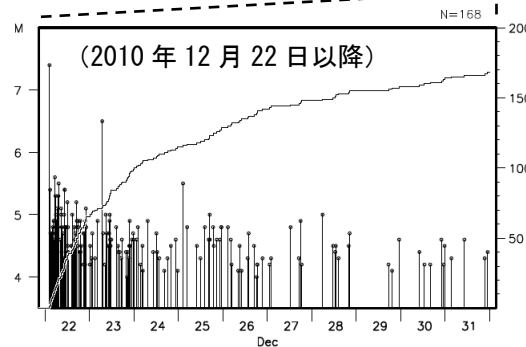
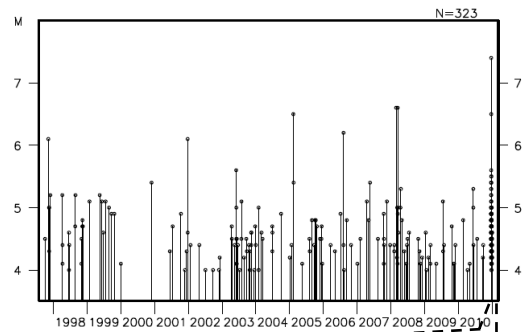
気象庁はこの地震について、小笠原諸島に津波警報(津波)を、伊豆諸島から奄美諸島・トカラ列島にかけての太平洋沿岸に津波注意報を発表し、八丈島八重根で0.5m(注)、父島二見で22cmなど、東北地方の一部及び関東地方南部から沖縄地方にかけての太平洋沿岸で津波を観測した。

この地震の後、12月23日にM6.5の地震(最大震度3)が発生するなど、震度1以上を観測する余震が10回発生している。活動は徐々に減衰している(12月31日現在)。

今回の地震の震央付近(領域a)は地震活動が活発な領域であり、1997年10月以降の活動を見ると、M6.0を超える地震が時々発生している。

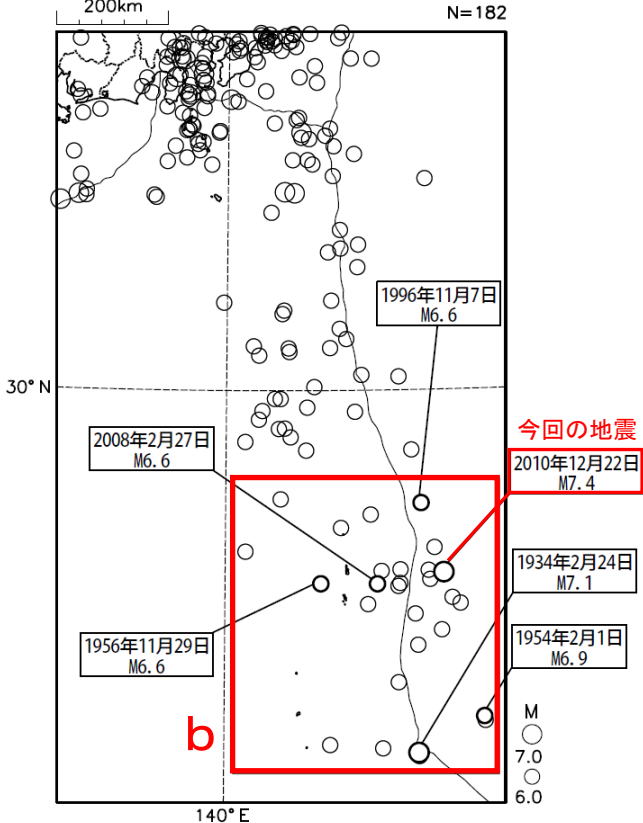
(注) 巨大津波計の観測点であり、その観測精度は0.1m単位である。

領域a内の地震活動経過図、回数積算図

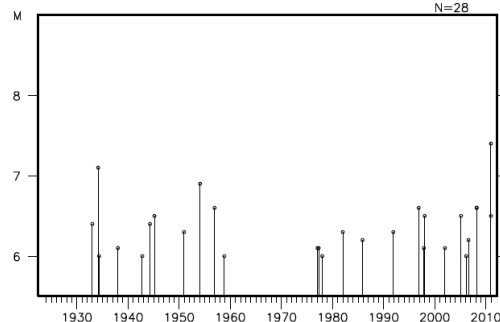


1923年8月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近(領域b)ではM6.0を超える地震が時々発生している。

震央分布図(1923年8月1日~2010年12月31日、 $M \geq 6.0$ 、深さ0~200km)



領域b内の地震活動経過図



検知能力が低下している期間 気象庁作成

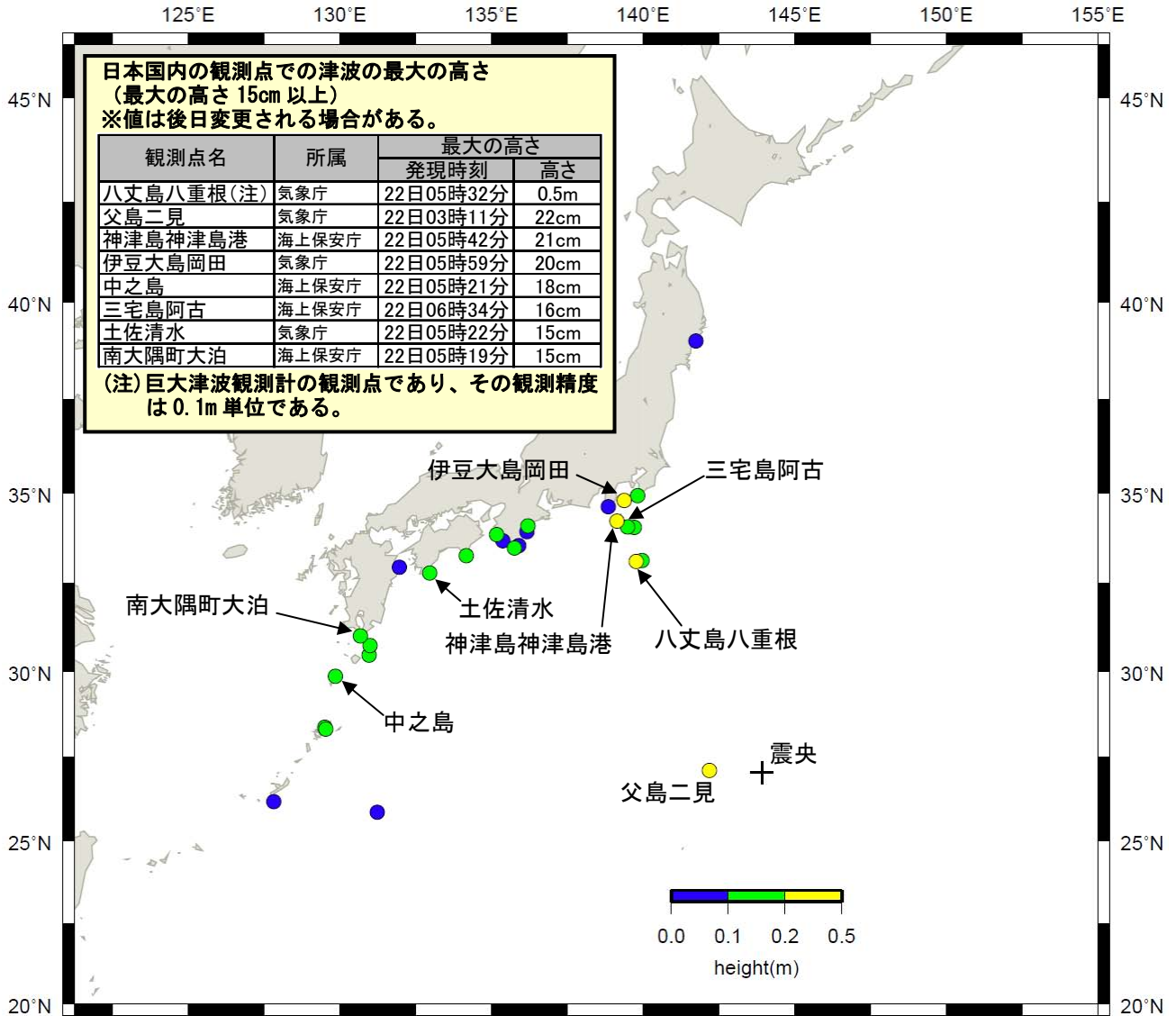
父島近海の地震による津波（日本国内の観測値）

各観測点において観測した津波の最大の高さ

（津波を観測した点のみ表示し、高さ 15cm 以上を観測した点については観測点名を表記）

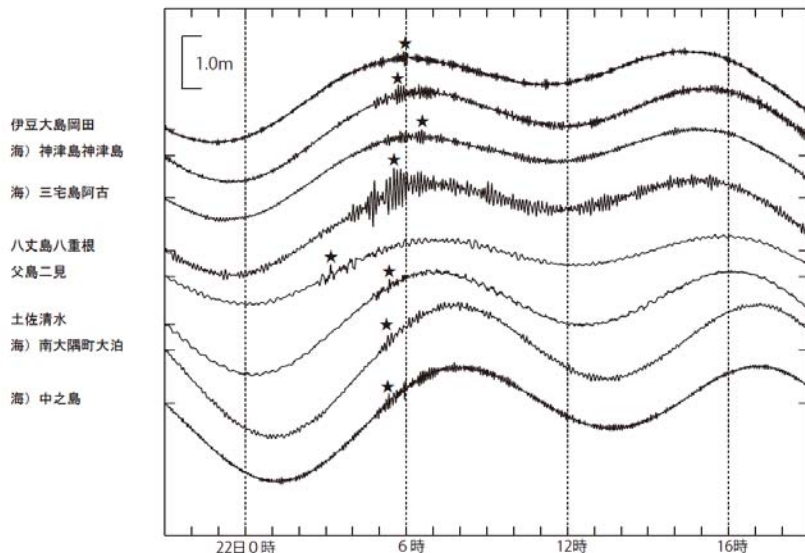
※国土地理院、海上保安庁の観測点の記録を含む。

本資料中の観測点名は、津波情報で発表する観測点名称を用いている。



日本国内の主な観測点の潮位記録（最大の高さ 15cm 以上の津波を観測した点）

海) は海上保安庁、無印は気象庁の観測点である。



★ 最大の高さ発現時刻

